

▲溶けるやうな菓子 小兒が滿一年近くになると

授乳の間にビスケットとかボールの如き澱粉や砂糖で製した菓子を與へて差支へない、此時期になると母親が與へないでも小兒の方から自然爾ういふものを欲しがつて來るものです、尤も斯ういふ菓子類でもゴチ／＼した堅いものや、口へ入れても力を入れて咀嚼がねば消化せぬやうなものでは與へて却つて害になるのです、先づ口へ入れたなら直ぐに解けて仕舞うやうな性質のものを選ばなければなりません、之れを思はないで、ビスケットなら何んでも宜からうと云かやうな無責任なことをされては困ります、夫れから飴などを與へたら何うだらうかと云ふ御質問をなさる方もありませけれど之は與へて宜しいのです、牛乳の中へでも溶き交せて與へれば尙結構です、近來下山、丹波の兩藥學博士がヂゲストーゼの飴を拵らへて賣出してあるが斯ういふ飴なら尙可いと思ひます夫れに極く軟かな水飴ですから熱度の低い牛乳でも善く溶けます。

子を持てる親方への注意

左の數項は米國紐育市の一雜誌が懸賞にて募集せるものなりと云ふ、參考にもと譯し出せり

▲神經質になる原因

赤子は生れて二ヶ月目に事物を識別する徴候を表し、初めて微笑したり、或は音響の來る方向に頭を向けたりなどします。此時が家族の大に注意すべき時で堪へず話をしかけたりガラ／＼やサイツチや其他いろ／＼の手遊物を振たり、其前を彼方此方と通過したりして可愛がります。此事を適當に宜しきを得る様に心掛けぬと小兒を神經質にするのであります。赤子の神經系は極めて弱きもの故、物事を強てはなりません、貧乏人の小兒の方が富貴の人の小兒より却て神經質でないこと云ふことは吾人の熟知する處ですが此は重に母親や家族のものが絶えず侍て居る事が出來ぬからです。赤子は生れながら神經質ではないので譬へ其傾向があるにせよ生て年月の多く過ぬ内に規則正しく養育し、十分に睡眠させ自然の發達に任せて更に強ゆ

るに非れば匡正する事が出来ず。赤子の脳は生れて第一年に於て非常な発達をするものですから平静なる事を要するので不相當な活動を強てはならぬのであります。赤子其内にも第一子は非常の寵愛を受け、是は年長者よりの好意であるが此が爲却て疲勞するので若し話する事が出来るならば寧ろ獨で自己の手足を手遊物にするのみで全く足る事を告げるでせう。

▲赤子の叫泣

赤子の叫泣を考究して見ると其泣のは實際の苦痛とか又は不愉快の感情より起りたるもので無い事が往々あります。意義を明瞭に表さぬ泣聲に因りて徒に不喜な事と推測するの不合理なものは勿論のことで叫喊は多くの場合に於て単に赤子が呼吸の際に起りて肺臓の強健な事を表示するのであります。斯る作用によりて生活の須要なる機能発達し且完全になり行く様造化により巧に組成せられて居るので、赤子の初期では此作用が彼等の運動法なので是によりて血液の循環が均齊し消化力や身体の健康が進み其他種々の機能が活動するので

ありませう。赤子の泣叫は悉く他の助力を得ん爲めと思考して其推察した不足を満足させる様飲食物を與へるのは極めて當を得ぬとでありませう。斯の如き輕率な取扱からして間食の習慣を養成し遂には消化力を害する様になるのです。故に赤子を泣せまいとして間斷なく愛護し心を勞し過る親は實際に於て却て赤子に害を與へ居るゝになるのであります。

▲食物の好嫌

小兒は時々食物によりて好嫌を爲ますが是は注意すべきとであります。好嫌のあるのは其體質に異なる處が在るからなので嫌な物を無理に進めるのは實に殘酷な事です。若し嫌な物を強て食すると胃腸に不平均を來す故小兒を善く育てるには彼等の好きな物を與へて嫌な物を強てはなりません。

▲小兒の前にて家計を談ずる勿れ

小兒の前で家計の困難な事を談ずると小兒の心中に其事を苦惱する習慣を養生するとは誰しも知り居るでせう。自分にも其經驗がありませう。両親は自分が未だ此の如き問題を解さぬと思ふて家計の

事を談じて居るのを漏れて、落ち來らんとする不幸を想像し又父が死去の後には如何に哀れな孤兒にならんかなと思ふて煩悶して居りました。

▲貸借問題

現今兒童が他人の物品を使用するに付て極めて無頓着なるのを親は之を輕視する如く見ゆ、自分は幼年時代には絶對的必要に非れば他人の物品を借てはならぬ又借用した物品は速に而して少しも害さずに返却せねばならぬと教訓されたものである、然るに今日では其と全く異なるので、自分の小供が學校へ入學すると間も無く下の如き事を注目した、其遊朋に書籍を貸した、何れも數度催促するまで返却しない彼等は教科書を借りて其必要な時に用をなさぬ事をするし又手巾やラケット等を借りて返す時に汚したり害ねたりする。上記の事は些細な事と云ふかも知れぬが、此等を許容し置くとは其時代の傾向を表示するのである。此習慣が募ると一知己より一品を借り他より又一品を借りて其日暮を爲すもの夥多になりゆくのである、思ふに小兒をして其初めの薰陶を誤らざる様

にし以て此の如き行為に陥らざる様留意するは實に母親たるもの、義務である。

▲女子と厨

皿を洗ふをを好まぬ女兒でも自身調理に従事せれば興味を以て臺所の事を取行ふ様になります。自分の娘は麵麩とビスケットを焼く事が出来ましたが次第に簡易な調理をなす事が出来る様になりました。是に従事させて時に稱賛して勵ましたが以後皿を洗ふに世話は掛りませんでした。

△紐育では四十秒毎に外國人が來、五十二秒毎に汽車が着き、六分毎に子供が生れ、七分毎に葬儀があり、十三分毎に婚禮があり、五十一分毎に家屋が建てられ、一時間四十八分毎に船が出帆し、七時毎に破産するものがある割合だといふ。